

中国古典に由来する日中熟語や諺の相違点について(3)

Ling, Zhi Wei / 凌, 志偉

(出版者 / Publisher)

法政大学教養部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編 / 法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編

(巻 / Volume)

95

(開始ページ / Start Page)

129

(終了ページ / End Page)

163

(発行年 / Year)

1996-02

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00004851>

中国古典に由来する日中熟語や 諺の相違点について (3)

凌 志 偉

- 五鼎(ごてい)に食らずんば死して五鼎に烹(に)られん
丈夫生不五鼎食即五鼎烹耳。

史記・主父偃傳

中：生不五鼎食，死即五鼎烹。

- 言(こと)悖(もと)りて出(い)ずればまた悖りて入る
是故言悖而出者，亦悖而入。貨悖而入者，亦悖而出。

大學

中：悖入悖出。

- ことごとく書(しょ)を信ずれば則ち書無きに如かず
盡信書，則不如無書。吾於武成，取二三策而已矣。

孟子・盡心下

中：尽信书不如无书。

- 琴柱(ことじ)に膠(にかわ)す

藺相如曰，王以名使括，若膠柱而鼓瑟耳。括徒能讀其父書傳，不知合變也。

史記・藺相如傳

中：胶柱鼓瑟。

- 言葉(ことば)なお耳(みみ)にあり
今君雖終，言猶在耳，而棄之，若何？

左傳・文公七年

中：言犹在耳。

- 五斗米(ごとべい)のために腰を折る
潛歎曰，吾不能爲五斗米折腰，拳拳事鄉里小人邪。
晉書・隱逸

中：为五斗米折腰。

注：中国語は出典のように否定の形で使われのが普通です。

- 胡馬(こば)北風に依(よ)る
胡馬依北風，越鳥巢南枝。
文選・古詩十九首

中：胡马依北风。

- 塞翁(さいおん)が馬
近塞上之上，有善術者，馬無故而入胡。人皆弔之。其父曰，此可遽不爲福乎。居數月，其馬將胡駿馬而歸。
淮南子・人間訓

中：塞翁失马，焉知非福。

- 歲月流るる如し
歲月如流，半生何幾？
徐陵・與楊僕射書

中：岁月如流。

- 歲月人を待たず
盛年不重來，一日難再晨。及時當勉勵，歲月不待人。
陶潛・雜詩十二首・其一

中：岁月不待人。

- 細行(さいこう)を矜(つつし)まざれば終(つい)に大徳を累(わずら)わす
不矜細行，終累大徳，爲山九仞，功虧一篑。
書經・旅獒

中：不矜细行，终累大徳

- 歳歳(さいさい)年年人同じからず
年年歳歳花相似，歳歳年年人不同。
劉希夷・代悲白頭翁

中：岁岁年年人不同。

注：中国語としては“年年岁岁花相似，岁岁年年人不同”の形で使われるのが普通です。

- 采薪(さいしん)の憂(うれ)い
昔者有王者，有采薪之憂，不能造朝。
孟子・公孫丑下

中：采薪之忧。

- 豺狼(さいろう)路(みち)に当たれり，安(いづく)んぞ狐狸(こり)を問わん
而網獨埋車輪於洛陽都亭曰，豺狼當路，安問狐狸。
荀悅・漢紀・平帝紀

中：豺狼当道。豺狼当路。

- 酒に別腸(べっちょう)あり
五代史，閩王曦謂周維岳曰，岳身甚小，何能飲之多，左右曰，酒有別腸，不必長大。
通俗編・飲食・酒有別腸

中：酒有別腸。

- 酒は憂(うれ)いの玉符(たまははき)
應呼釣詩鈎，亦號掃愁帚。
蘇軾・洞庭春色詩

中：酒为扫愁帚。

- 酒は百薬の長
夫鹽食肴之將，酒百藥之長，嘉會之好。
漢書・食貨志下

中：酒为百药之长。

- 座(ざ)して食らえば山も空(むな)し

常言道，坐食山空，寧出一斗，莫進一口。

王玉峰・焚香記・離間

中：坐食山空。坐吃山空。

◦ 去る者は追わず。

來者勿拒，去者勿追。

春秋公羊傳・隱公二年

中：去者勿追。

◦ 去る者は日に疎(うと)し

去者日以疎，生者日以親。

文選・古詩十九首

中：去者日以疏。

◦ 山雨きたらんと欲して風樓に満(み)つ

溪雲初起日沈閣，山雨欲來風滿樓。

許渾・咸陽城東樓詩

中：山雨欲來風滿樓。

◦ 三軍の帥(すい)を奪うべきなり、匹夫(ひつぶ)も志(こころざし)を奪うべからざるなり

子曰，三軍可奪帥也，匹夫不可奪志也。

論語・子罕

中：三軍可奪帥也，匹夫不可奪志也。

◦ 三顧(さんこ)の礼

三顧臣於草廬之中，諮臣以當世之事。

諸葛亮・前出師表

中：三顧草廬之礼。

注：中国語としては熟語ではない。

◦ 三十六計逃げるに如かず

檀公三十六策，走爲上計，汝父子唯應急走耳。

南齊書・王敬則傳

中：三十六策，走为上計。

三十六計，走为上計。

・三千の寵愛(ちょうあい)一身にあり

後宮佳麗三千人，三千寵愛在一身。

白居易・長恨歌

中：三千寵愛在一身。

・山中の賊(ぞく)を破るは易く心中の賊を破るは難(かた)し

某向在横水，嘗寄書仕德云，破山中賊易，破心中賊難。區區翦除鼠竊，何足爲異。若諸賢掃蕩心腹之寇，以收廓清平定之功。此誠大丈夫不世之偉績。

王陽明・與楊仕德、薛尙誠書

中：破山中賊易，破心中賊難。

・山中曆日(れきじつ)なし

偶來松樹下，高枕石頭眠。山中無曆日，寒盡不知年。

唐詩選・太上隱者作・答人詩

中：山中无历日。

・三年飛ばず鳴かず。

淳于髡説之以隱，曰，國中有大鳥，止王之庭，三年不蜚又不鳴，王知此鳥何也。王曰，此鳥不飛則已，一飛衝天。不鳴則已，一鳴驚人。

史記・滑稽列傳

中：毫无作为达三年。

注：同じ出典から、中国語は“一鸣惊人”(登場したとたんに、あつと言わせるほどの大活躍をする)という熟語が良く使われる。

・仕(し)を致す

既而曰，若此乎，古之道，不即人心，退而致仕。

春秋公羊傳・宣公元年

中：致仕。辞官。

・史(し)に三長(さんちょう)あり

禮部尙書鄭惟忠嘗問，自古文士多。史才少何耶。對曰，史有三長，才、學、識，世罕兼之，故史者少。

唐書・劉知幾傳

中：史有三長，才、学、识。

・死は或(あるい)は泰山より重く、或は鴻毛(こうもう)より軽し
人固有一死，或重於泰山，或輕於鴻毛。

司馬遷・報任少卿書

中：死有重于泰山，有轻于鸿毛。

・死を視(み)ること帰するが如し。
及其不可避也，君子視死如歸。

大戴禮・曾子制言上

中：視死如归。

・齒(し)を没す。
人也，奪伯氏駢邑三百，飯疏食，沒齒無怨言。

論語・憲問

中：逝世。至死～。

注：中国語は“没齿难忘”（この恩は一生忘れられません）という成語が良く使われる。

・詩に別才(べっさい)あり
夫詩有別才，非關書也。詩有別趣，非關理也。

滄浪詩話・詩辯

中：诗有別才。

・駟(し)の隙(げき)を過ぐるが若(ごと)し
三年之喪，二十五月而畢，若駟之過隙，然而遂之，則是無窮也。

禮記・三年問

中：(光阴如)白驹过隙。(出典：莊子・知北游)

・駟(し)も舌に及ばず
惜乎，夫子之說君子也，駟不及舌。

論語・顔淵

中：駟不及舌。一言既出，駟馬難追。

- ・時雨(じう)の化
有如時雨化之者。

孟子・盡心上

中：沐浴恩澤。雨露。

- ・鹿(しか)を逐(お)う
秦失其鹿，天下共逐之。

史記・淮陰侯傳

中原初逐鹿，投筆事戎軒。

唐・魏徵・述懷詩

中：逐鹿中原。

- ・鹿(しか)を逐(お)う者(=獵師(りょうし))は山を見ず
逐獸者，目不見太山。嗜慾在外，則明所蔽矣。

淮南子・說林訓

中：逐鹿者不見山。熱衷追求利益的人不會顧及周圍的形勢。

- ・鹿(しか)を指(さ)して馬となす
趙高欲爲亂，恐羣臣不聽，乃先設驗，持鹿獻於二世曰，馬也。二世笑曰，丞相誤邪。謂鹿爲馬。問左右，左右或默，或言馬以阿順趙高，或言鹿者。高因陰中諸言鹿者以法。後羣臣皆畏高。

史記・秦始皇本紀

中：指鹿爲馬。

- ・紙價(しか)を高める=洛陽(らくよう)の紙價を高める(その項を参照)

- ・齒牙(しが)にも掛けない
此特羣盜鼠竊狗盜耳，何足置之齒牙間。

史記・叔孫通傳

中：不值一提。何足道哉。

- ・自家(じか)薬籠中(やくろうちゅう)の物
仁傑笑而謂人曰，此吾薬籠中物，何可一日無也。

舊唐書・元行沖傳

中：儲備着隨時可以使用的人或物。

- ・四海(しかい)波靜か
六合塵清，四海波靜。

楊萬里

中：四海升平。

- ・死灰(しかい)復(また)燃ゆ
安國坐法抵罪，蒙獄吏田甲辱安國，安國曰，死灰獨不復然乎。

史記・韓長孺傳

中：死灰復燃。

- ・屍(しかばね)に鞭(むち)打つ
及吳兵入郢，伍子胥求昭王。既不得，乃掘楚平王墓，出其尸，鞭之三百，然後已。

史記・伍子胥傳

中：鞭尸。

- ・兒戲(じぎ)に等しい
曩者霸上，棘門軍，若兒戲耳，其將固可襲而虜也。

史記・絳侯周勃世家

中：視同兒戲。

- ・自強(じきよう)息(や)まず
天行健，君子以自強不息。

易經・乾卦

中：自強不息。

- ・舳舻(じくろ)相銜(あいふく)む
舳舻尾相銜，密次若鱗甲。

歐陽玄・舟次諸牘寄詩奉謝都水分監瑞卿監丞詩

中：舳舻相銜。

- 志士(しし)苦心(くしん)多し
渴不飲盜泉水，熱不息惡木陰。
惡木豈無枝，志士多苦心。

陸機・猛虎行

中：志士多苦心。

- 志士(しし)仁人(じんじん)は生を求めて以て仁を害するなし
子曰，志士仁人無求生以害仁。有殺身以成仁。

論語・衛靈公

中：志士仁人無求生以害仁。

- 四十(しじょう)にして惑(まど)わず
子曰，吾十而有五而志於學，三十而立，四十而不惑。

論語・爲政

中：四十而不惑。

- 爾汝(じじょ)の交わり
爾衡少與孔融作爾汝之交，時衡未滿二十，融已五十。

晉・張隱・文士傳

中：称兄道弟。尔汝交。

- 死して後(のち)已(や)む。
曾子曰，士不可以不弘毅。任重而道遠。仁以爲己任。不亦重乎。死而後已，不亦遠乎。

論語・泰伯

中：死而后已。

- 死(し)せる孔明生ける仲達(ちゅうたつ)を走らしむ
漢晉春秋曰，楊儀等整軍而出，百姓奔告宣王，宣王追焉。姜維令儀反旗鳴鼓，若將向宣王者。宣王乃退，不敢偪。於是儀結陣而去。入谷然後發喪。宣王之退也，百姓爲之諺曰，死諸葛走生仲達。或以告宣王。宣王曰，吾能料生，不便料死也。

蜀志・諸葛亮傳注

中：死諸葛能走生仲達。
死諸葛吓走生仲達。

- 死生(しせい)の命(めい)あり
死生有命，富貴在天。

論語・顔淵

中：死生有命。

- 舌を卷(ま)く
是以欲談者卷舌而同聲，欲步者擬足而投跡。
揚雄・解嘲
李善注：言不敢奇異也。故欲談者卷舌而不言，待彼發而同其聲。
中：①(非常に驚くという意味から)十分惊讶。
②(感心するという意味から)咋舌。赞叹不已。

- 死地(しち)に陥(おとしい)れて後(のち)生く
投之亡地然後存，陷之死地然後生。
孫子・九地

中：置之死地而后生。

- 七人の子は生(な)すとも女に心許すな
衛之淫風流行，雖有七子之母，猶不能安其室。
詩經・邶風・凱風序

中：虽是七子之妻，未可松驰大意。

- 死中(しちゅう)に活を求む
死中求生，正在今日也。
晉書・呂光載記

男兒當死中求生，可坐窮乎。

後漢書・公孫述傳

中：死中求活。死中求生。

- 室(しつ)に入りて矛(ほこ)を操(あやつる)

時任城何休，好公羊學，遂著公羊墨守，左氏膏肓，穀梁廢疾。玄乃發墨守，鍼膏肓，起廢疾。休見而嘆曰，康成入吾室，操吾矛以伐我乎。

後漢書・鄭玄傳

中：入室操戈。

◦十指(じっし)の指(さ)す所(ところ)

十目所視，十手所指，其嚴乎。

禮記・大學

中：(大勢の意見が一致すること。また、その意見が誤っていないことという意味から)众人所见略同。群众の意見不会錯。

注：中国語は古代から“十目所視，十手所指”は、人の言行は多くの人の目にさらされており、悪いことをすると、隠そうと思っても隠しおせものではないという意味に使われている。

◦疾風(しっふう)に勁草(けいそう)を知る

光武謂霸曰，穎川從我者皆逝，而子獨留努力。疾風知勁草。

後漢書・王霸傳

中：疾風知勁草。

◦疾雷(しつらい)耳を掩(おお)うに及ばず

巧者一決而不猶豫，故疾雷不及掩耳，卒電不及瞑目。

六韜・龍韜軍勢

中：疾雷不及掩耳。迅雷不及掩耳。

◦死馬(しば)の骨を買う

郭隗先生曰，臣聞古之君人，有以千金求千里馬者，三年不能得，涓人言於君曰，請求之。君遣之。三月得千里馬。馬已死，買其首五百金。反以報君。君大怒曰，所求者生馬，安事死馬，而捐五百金。涓人對曰，死馬且買之五百金，況生馬乎。天下必以王爲能市馬。馬今至矣，於是不能期年，千里之馬至者三。

戰國策・燕一

中：(さして優秀でない者を優遇して、優秀な者が次第に集まって来るようにしむけるという意味から)厚待平庸之輩，天下豪杰自会闻風而至。

・駟馬(しば)も追(お)う能(あた)わず=駟も舌に及ばず

・死命(しめい)を制する

昔者湯伐桀，而封其後於杞者，度能制桀之死命也。今陛下能制項籍之死命乎。

史記・留侯世家

中：制～的死命。

・霜(しも)を履(ふ)んで堅氷(けんばよう)に至る

初六，履霜，堅冰至。象曰，履霜堅冰，陰始凝也。馴致其道，至堅冰也。

周易・坤卦

中：履霜堅冰。

・尺(しゃく)も短き所あり寸(すん)も長き所あり

夫尺有所短，寸有所長。物有所不足，智有所不明。數有所不逮，神有所不通。

楚辭・卜居

中：尺短寸長。

・尺(しゃく)を枉(ま)げて尋(ひろ)を直(の)ぶ

枉尺而直尋，宜若可爲也。

孟子・滕文公下

中：枉尺直尋。

・錫(しゃく)を飛ばす

王喬控鶴以冲天，應眞飛錫以躡虛。

孫綽・遊天台山賦

中：飞錫。僧人游方。

・尺蠖(しゃっかく)の屈(かが)めるは伸びんがため

尺蠖之屈，以求信也。龍蛇之蟄，以存身也。

周易・繫辭下

中：尺蠖之屈。

- 主(しゅ)辱(はずかし)めらるれば臣(しん)死す
臣聞主憂臣勞，主辱臣死。

史記・越王勾踐世家

中：主辱臣死。

- 朱(しゅ)に交われれば赤くなる
夫金水無常，方圓應形，亦有隱括，習以性成，故近朱者赤，近墨者墨。
晉・傅玄・太子少傅箴

中：(人は交わる友、または環境によって良くも悪くもなるという意味から)近朱者赤，近墨者黒。

注：中国語の“近朱者赤”は良い意味しかない。

- 株(しゅ)を削り根を掘る
削株掘根，無與禍鄰，禍乃不存。

戰國策・秦策一

中：斬草除根。削株掘根。

- 寿(しゅ)を上(たてまつ)る
天子從禪還坐明堂，羣臣更上壽。
史記・封禪書

中：上寿。

- 綬(じゅ)を釈(と)く
故解印釋紱，以北帶南，分割膏腴，以奉執事。
漢・陳琳・爲袁紹與公孫瓚書

中：挂冠。解綬。釋紱。

- 綬(じゅ)を結ぶ
脫巾千里外，結綬登王畿。
顏延之・秋胡行

中：仕進。出仕。結綬。

- 雌雄(しゆう)を決する
項王謂漢王曰，天下匈匈數歲者，徒以吾兩人耳。願與漢王挑戰，決雌雄。

毋徒苦天下之民父子爲也。

史記・項羽本紀

中：一決雌雄。

◦柔(じゅう)も亦(また)茹(くら)わず剛(ごう)も亦吐かず
柔亦不茹，剛亦不吐。

詩經・大雅・烝民

中：不欺軟怕硬。柔亦不茹，剛亦不吐。

注：中国語には同じ出典から、「柔茹剛吐」、「吐剛茹柔」といった成語があり、相反する意味になります。

◦柔(じゅう)能(よ)く剛(ごう)を制す

柔能制剛，弱能制強。柔者德也，剛者賊也。弱者仁之助也，強者怨之歸也。

後漢書・藏宮傳

柔能制剛，弱能制強。

三略・上略

中：柔能制剛。

◦獸(じゅう)を逐(お)う者は目に太山(たいざん)を見ず

逐獸者目不見太山。嗜慾在外，則明所蔽矣。

淮南子・說林訓

中：逐獸者目不見太山。

◦衆寡(しゅうか)敵せず

今欲誅卓，衆寡不敵。

三國志・魏志・張範傳

中：寡不敵衆。衆寡不敵。

◦習慣は自然の如し。

孔子曰，然，少成則若性也，習慣若自然也。

孔子家語・七二弟子解

中：習慣成自然。

- 衆口(しゅうこう)金(きん)を鑠(と)かす
故諺曰、衆心成城、衆口鑠金。

國語・周語下

中：众口铄金

- 衆心(しゅうしん)城を成す
故諺曰、衆心成城、衆口鑠金

國語・周語下

中：众志成城。众心成城。

- 秋波を送る。
流眇如有意、宛轉送秋波。

遠思樓詩鈔・二・讀搜神記

中：送秋波。

- 愁眉(しゅうび)を開く
不如貧賤日、隨分開愁眉。

白居易・晩春沽酒詩

中：舒展愁眉。

- 重宝(じゅうほう)を抱くものは夜行せず
懷重寶者、不以夜行。任大功者、不以輕敵。

戰國策・秦策・昭襄王

中：怀重宝者不夜行。

- 十日(じゅうもく)の視る所十手(じっしゅ)の指す所
→ 十手(じっし)の指す所

- 聚斂(しゅうれん)の臣(しん)あらんよりむしろ盜臣(とうしん)あれ
百乘之家、不畜聚斂之臣。與其有聚斂之臣、寧有盜臣。

大學

中：与其有聚斂之臣，宁有盜臣。

- 珠玉(しゅぎょく)の瓦礫(がれき)に在(あ)るが如し

夷甫處衆中，如珠玉在瓦礫石間。

晉書・王衍傳

中：如珠玉在瓦礫石間。

・菽水(しゅくすい)の歡(かん)

孔子曰，啜菽飲水盡其歡，斯之謂孝。

禮記・檀弓下

中：供養長輩。菽水(之歡)。

・菽麥(しゅくばく)弁(べん)せず

周子有兄而無慧，不能辨菽麥，故不可立。

左傳・成公十八年

中：不辨菽麥。

・孺子(じゅし)教うべし

復還曰，孺子可教矣。後五日平明，與我會此。

史記・留侯世家

中：孺子可教。

・豎子(じゅし)の名を成す

龐涓自知智窮兵敗，乃自剄曰，遂成豎子之名。

史記・孫子列傳

中：遂成豎子之名。敗于无名小卒。

・手足(しゅそく)を措(お)く所なし

刑罰不中，則民無所措手足。

論語・子路

中：(安心して身を置く場所がない、安心して生活することができないという意味から)无法安居乐业。

注：現代中国語の“手足无措”はどうして良いかわからないという意味です。

・首足(しゅそく)処(ところ)を異(こと)にす

狐雖知要領不屬，首足異處，四枝布裂，爲天下戮，狐之志必將出焉。

呂氏春秋・順民

請命有司，有司加法焉，手足異處。

史記・孔子世家

中：身首异处。手足异处。首足异处。

◦ 出藍(しゅつらん)の誉れ

→ 青は藍(あい)より出(い)でて藍より青し

◦ 循環端(はし)無きが如し

奇正相生，如循環之無端，孰能窮之哉。

孫子・兵勢

中：循环无端。循环反复。

◦ 春秋(しゅんじゅう)に富む

皇帝春秋富，未能治天下。

史記・齊悼惠王世家

中：春秋正富。

◦ 春秋(しゅんじゅう)の筆法(ひっぽう)

朱文公《通鑑綱目》以正名爲先，…蓋純用春秋筆法也。

宋・俞文豹・吹劍錄

中：春秋筆法

◦ 春宵(しゅんしょう)一刻(いっこく)値(あた)い千金

春宵一刻值千金，花有清香月有陰。

蘇軾・春夜詩

中：春宵一刻值千金。

注：中国語としては「一刻千金」の形で使われるのが普通です。

◦ 春眠(しゅんみん)暁(あかつき)を覚えず

春眠不覺曉，處處聞啼鳥。

孟浩然・春眠詩

中：春眠不覺曉。

- ・書(しょ)は以て姓名(せいめい)を記(き)するに足(た)るのみ
項籍少時，學書，不成。去學劍，又不成。項梁怒之。籍曰，書，足以記
名姓而已。劍，一人敵，不足學。

史記・項羽本紀

中：書，足以記姓名而已。

- ・書(しょ)を校(こう)するは塵(ちり)を払(は)うが如(ごと)し。
宋宣獻博學，喜藏異書，皆手自校讎，常謂，校書如掃塵，一面掃一面生，
故有一書，每三四校，猶有脫謬。

夢溪筆談・雜誌二

中：校書如掃塵。

- ・緒(しょ)に就(つ)く
不留不處，三事就緒。

詩經・大雅・常武

中：(事を始める。着手するという意味から)刚开始。

注：現代中国語の“就绪”は用意万端ととのうの意味です。

- ・將を射(い)んと欲すればまず馬を射よ
射人先射馬，擒賊先擒王。

杜甫・前出塞詩之六

中：射人先射馬，擒賊先擒王。

- ・章を断ち義を取る
(魯頌曰，戎狄是膺，荆舒是懲，周公旦膺之。)按，今此詩爲僖公之頌，而
孟子以周公言之，亦断章取義也。

孟子注・滕文公上

中：断章取義。

- ・定(じょう)に入(い)る
中宵入定跏趺坐，女喚妻呼多不應。

白居易・在家出家詩

中：入定。

- 上医(じょうい)は国を医(いや)す
文子曰、醫及國家乎。對曰、上醫醫國、其次疾人、固醫官也。
國語・晉語八

中：上医医国。

- 松菊(しょうきく)猶(なお)存(そん)す
三徑就荒、松菊猶存。
陶淵明・歸去來兮辭

中：松菊犹存。

- 小人(しょうじん)閑居して不善(ふぜん)をなす
小人閑居爲不善、無所不至。
大學

中：小人閑居爲不善。

- 小人(しょうじん)窮すれば斯(ここ)に濫(らん)す
君子固窮、小人窮斯濫矣。
論語・衛靈公。

中：小人穷斯濫矣

- 小人(しょうじん)罪(つみ)無し玉(たま)を懷(いだ)いて罪有り
周諺有之、匹夫無罪、懷璧其罪。
春秋左傳・桓公十年

中：匹夫无罪、懷璧其罪。

- 小人(しょうじん)の過(あやま)つや必ず文(かぎ)る
小人之過也必文。
論語・子張

中：小人之过也必文。

- 将星(しょうせい)落(お)つ
晉陽秋日、有星赤而芒角、自東北西南流、投於亮營。三投再還。往大選
小、俄而亮卒。
三國志・諸葛亮傳注

中：将星隕落。

◦ 少壯(しょうそう)幾時(いくとき)ぞ
簫鼓鳴兮發櫓歌，歡樂極兮哀情多，少壯幾時兮奈老何。
漢武帝・秋風辭

中：少壯几时兮奈老何。

◦ 勝地(しょうち)定主(ていしゅ)なし
亂峰深處雲居路，共蹋花行共惜春。勝地本來無定主，大都山屬愛山人。
白居易・遊雲居寺贈穆三十六地主詩

中：胜地本来无地主。

◦ 上知(じょうち)と下愚(かぐ)とは移(うつ)らず
唯上知與下愚不移。
論語・陽貨

中：唯上知与下愚不移。

◦ 笑中(しょうちゅう)に刀(とう)あり
義府貌狀溫恭，與人語，必嬉怡微笑，而褊忌陰賊。既處權要，欲人附己，
微忤意者，輒加傾陷。故時人言，其笑中有刀。
舊唐書・李義府傳

中：笑里藏刀。

◦ 掌中(しょうちゅう)の珠
昔君視我，如掌中明珠。何意一朝，棄我溝渠。
晉・傅玄・鶉觚集・短歌行

中：(大事なものや、最愛の子のたとえという意味)珍贵的东西，最宠爱的孩子。

注：現代中国語の“掌上明珠”は目の中へ入れても痛くないほどかわいがっている娘のことを指す。

◦ 少年(しょうねん)老い易(やす)く学成り難(がた)し
少年易老學難成，一寸光陰不可輕。
未覺池塘春草夢，階前梧葉已秋聲。

朱熹・偶成詩

中：少年易老学难成。

- 城府(じょうふ)を設けず
堯俞厚重寡言，遇人不設城府，人自不忍欺。
宋史・傅堯俞傳

中：胸无城府。

- 鷓鴣(しょうりょう)深林(しんりん)に巢(す)くうも一枝(いっし)に過ぎず
鷓鴣巢於深林不過一枝，偃鼠飲河不過滿腹。
莊子・逍遙遊

中：鷓鴣一枝。

- 食指(しょくし)が動く
楚人馱鼃於鄭靈公，公子宋與子家將見，子公之食指動，以示子家曰，他日我如此，必嘗異味。

左傳・宣公四年

中：①(食欲が起こるという意味から)有食欲。

②(してみたい気持ちが起こるという意味から)心念大動。

注：中国語の“食指動”は御馳走にありつけそうだという意味です。

- 女子と小人(しょうじん)とは養い難し
子曰，唯女子與小人爲難養也，近之則不孫，遠之則怨。

論語・陽貨篇

中：唯女子与小人为难养也。

- 蜀犬(しょっけん)日(ひ)に吠(ほ)ゆ
屈子賦曰，邑犬群吠，吠所怪也。僕往聞庸，蜀之南，恒雨少日，日出則犬吠。

柳中元・答韋中立論師道書

中：蜀犬吠日。

- 虱(しらみ)を捫(ひね)って当世(とうせい)の務(む)を談ず
桓温入關，猛被褐而詣之。一面談當世之事，捫虱而言，旁若無人。

晉書・王猛傳

中：扞虱而談。

- 知らざるを知らずとせよ是(これ)知れるなり
知之爲知之，不知爲不知，是知也。

論語・爲政

中：知之爲知之，不知爲不知，是知也。

- 刃(じん)を迎えて解く
今兵威已振，譬如破竹，數節之後，皆迎刃而解，無復著手處也。

晉書・杜預傳

中：(破竹の勢いという意味から)勢如破竹。

注：現代中国語の“迎刃而解”は問題は容易に解決できるという意味です。

- 深淵(しんえん)に臨(のぞ)むが如し
戰戰兢兢，如臨深淵，如履薄冰。

詩經・小雅・小旻

中：如臨深淵，如履薄冰。

- 人後(じんご)に落ちない
氣岸遙凌豪士前，風流肯落他人後。

李白・流夜郎贈辛判官詩

中：不落后于他人。

- 人口に膾炙(かいしゃ)する
一篇一詠，膾炙人口。

林嵩・周朴詩集序

中：脍炙人口。

- 人事は棺を蓋(おお)うて定まる
丈夫蓋棺事始定，君今幸未成老翁。

杜甫・君不見簡蘇徯詩

中：蓋棺定論。

・人事を尽して天命を待つ

盡人事而待天命。

胡寅・致堂讀書管見

中：尽人事，听天命。

・仁者(じんしゃ)を憂(うれ)えず

知者不惑，仁者不憂，勇者不懼。

論語・子罕

中：仁者不忧。

・仁者(じんしゃ)は敵なし

仁者無敵。

孟子・梁惠王上

中：仁者无敌。

・仁者(じんしゃ)は山を楽しむ

知者樂水，仁者樂山。知者動，仁者靜。知者樂，仁者壽。

論語・雍也

中：知者乐山。

・身首(しんしゅ)処を異(こと)にす

身首異處，有足悲者。

北齊書・王琳傳

中：身首异处。

・人心(じんしん)の同じからざるはその面(おもて)の如し

人心之不同如其面焉，吾豈敢謂子面如吾面乎。

左傳・襄公三十一年

中：人心如面。

・人生意気(いき)に感(かん)ず

季布無二諾，侯嬴重一言。人生感意气，功名誰復論。

魏徵・述懷詩

中：人生感意气。

- 人生七十古来稀(まれ)なり
酒價尋常行處有，人生七十古來稀。
杜甫・曲江詩

中：人生七十古来稀。

- 人生は朝露(ちょうろ)の如し
人生如朝露，何久自苦如此。
漢書・蘇武傳

中：人生如朝露。

- 身体髮膚(しんたいはっふ)これを父母(ふぼ)に受く。あえて毀傷(きしよ
う)せざるは孝(こう)の始(はじめ)なり
身體髮膚，受之父母，不敢毀傷，孝之始也。
孝經・開宗明義

中：身体发肤，受之父母，不敢毁伤，孝之始也。

- 進退(しんたい)これ谷(きわ)まる
人亦有言，進退維谷。
詩經・大雅・桑柔

中：进退维谷。进退两难。

- 迅雷(じんらい)耳を掩(おお)うに暇(いとま)あらず
出其不意，直衝末柅帳，敵必震惶，計不及設，所謂迅雷不及掩耳。
晉書・石勒載記上
我欲戰而彼不欲戰者，我鼓而進之若山崩河溢，當其衝者催，值其鋒者破，
所謂疾雷不暇掩耳，則又誰禦之。
傅玄・《傅子・闕題》

中：迅雷不及掩耳。疾雷不及掩耳。疾雷不及塞耳。疾雷不暇掩耳。

- 酔を買う
子曰，孰謂微生高直。或乞醯焉，乞諸其鄰而與之。
論語・公治長

中：多管闲事而令人生气。

・燧(すい)を鑽(き)る

舊穀既沒，新穀既升，鑽燧改火，期可已矣。

論語・陽貨

中：(火打ち道具を打ち合わせて火を発するという意味から)钻木取火。钻木得火。

注：周書・月令に「春取榆柳之火，夏取棗杏之火，季夏取桑柘之火，秋取柞櫟之火，冬取槐檀之火。一年之中，鑽火各異，故曰改火也。」とあり、よって「钻燧改火」は普通あまり使わない。

・騅(すい)逝(ゆ)かず

力拔山兮氣蓋世，時不利兮騅不逝。

騅不逝兮可奈何，虞兮虞兮奈若何。

項羽・垓下歌

中：(思いどおりうまく運ばないという意味から)各事未能尽如人意。

・水火(すいか)を踏む

游金石，蹈水火，皆可也。

列子・黃帝

中：赴汤蹈火。

・水魚の交(まじ)わり

於是與亮情好日密，關羽張飛等不悅。先生解之曰，孤之有孔明，猶魚之有水也。願諸君勿復言。羽飛乃止。

蜀志・諸葛亮傳

中：魚水情。

・過ぎたるは猶(なお)及ばざるが如し

子曰，師也過，商也不及。曰，然則師愈與。子曰，過猶不及。

論語・先進

中：过犹不及。

・墨(すみ)は餓鬼(がき)に磨(す)らせ、筆は鬼に持たせよ

柳公權記 <略> 俗言磨墨如病兒，把筆如壯夫。

避書録話・卷下

中：磨墨如病儿，把笔如壮夫。

・墨(すみ)を磨(す)るは病夫の如く、筆を把(と)るは壮士の如くす
→上の項に同じ。

・寸(すん)を詘(ま)げて尺(しゃく)を信(の)ぶ
謹寸而伸尺，聖人爲之。小枉而大直，君子行之。

淮南子・汜論訓

中：枉尺直尋。

・寸鉄(すんてつ)人を殺す

蓋自我儒言之，若子貢之多聞，弄一車兵器者也。曾子之守約，寸鐵殺人者也。

羅大經・鶴林玉露

中：一言中的。寸鉄杀人。

・生(せい)ある者は必ず死あり

有生者必有死，有始必有終，自然之道也。

揚子法言・君子

中：有生者必有死。

・生(せい)は寄(き)なり死は帰(き)なり

生寄也，死歸也，何足以滑和。

淮南子・精神訓

中：生寄死归。

・生(せい)を偷(ぬす)む

子卿視陵豈偷生之士而惜死之人哉。

李陵・答蘇武書

今夫偷生淺知之屬，曾此而不知也。

荀子・榮辱

中：(苟且)偷生。

- 生(せい)を視(み)ること死(し)の如し
視生如死，視富如貧，視人如冢，視吾如人。
列子・仲尼

中：視生如死。

- 姓(せい)を冒(おか)す
自平陽公王家，得幸天子，故青冒姓爲衛氏。
史記・衛青傳

中：1.(別の姓を称するという意味から)冒姓。假托他人姓氏。
2.(他家を継ぐという意味から)过继。

- 性(せい)相(あい)近し、習(ならい)相遠し
子曰，性相近也，習相遠也。
論語・陽貨

中：性相近，习相远。

- 井蛙(せいあ)大海を知らず
→「井の中の蛙(かわず)大海を知らず」に同じ

- 精衛(せいえい)海を填(うず)む
發鳩之山，其上多柘木。有鳥焉。其狀如鳥，文首、白喙、赤足，名曰精衛，其鳴自詖。是炎帝之少女名曰女娃，女娃游於東海，溺而不返，故爲精衛，常銜西山之木石，以堙於東海。
山海經・北山經

中：(不可能な事を計画して、いたずらに力を費やし、無駄に終わることという意味から)徒劳无功。

注：中国語の「精卫填海」という成語は困難を恐れず、目的を達成できるまで頑張ること、または深い仇(かたき)を必ず討つと決心するという意味です。

- 枘鑿(ぜいさく)相容(あいい)れず
圓枘而方鑿兮，吾固知其鉏鋸而難入。
楚辭・九辯

中：枘凿方圆。枘凿冰炭。格格不入。

- 西施(せいし)の顰(ひそみ)に倣(なら)う
故西施病心而顰其里，其里之醜人見而美之，歸亦捧心而顰其里。其里之富人見之，堅閉門而不出。貧人見之，絜妻子而去之走。

莊子・天運

中：东施效顰。

- 精神(せいしん)一到(いっとう)何事(なにごと)か成らざらん
陽氣發處，金石亦透。精神一到，何事不成。

朱子語類・學二

中：精神一到，何事不成。有志者事竟成。

- 聖人(せいじん)に夢なし
古之真人，其寢不夢，其覺無憂。

莊子・大宗師

中：古之真人，其寢不夢，其覺无忧。

- 聖人は物に凝滯(ぎょうたい)せず
聖人不凝滯於物，而能與世推移。

楚辭・漁父

中：圣人不凝滯于物。

- 清水(せいすい)に魚(うお)住まず
水至清則無魚，人至察則無徒。

孔子家語・入官

中：水太清则无鱼。水至清则无鱼。

- 正正(せいせい)の旗、堂堂の陣
無邀正正之旗，無擊堂堂之陣。

孫子・軍爭

中：正正之旗，堂堂之陣。

- 青天(せいてん)の霹靂(へきれき)
放翁病過秋，忽起作醉墨。

正如久蟄龍，青天飛霹靂。

陸游・四日夜鷄未鳴起作

中：青天霹靂。晴天霹靂。

注：現代中国語としては“晴天霹靂”のほうが良く使われる。

・盛年(せいねん)重ねて来(きた)らず

盛年不重来，一日難再晨。

陶潛・雜詩

中：盛年不重来。

・声涙(せいのり)俱(とも)に下(くだ)る

因勃然數敦曰，兄抗旌犯順，殺戮忠良，謀圖不軌，禍及門戶。音辭慷慨，聲淚俱下。

晉書・王彬傳

中：声泪俱下。

・席(せい)暖まる暇(いとま)あらず

孔子無黔突，墨子無暖席。

淮南子・修務

孔子不暇暖，而墨突不得黔。

韓愈・爭臣論

中：席不暇暖。

・席を進める

上因感鬼神事，而問鬼神之本。賈生因具道所以然之狀，至半夜，文帝前席。

史記・賈生列傳

中：因谈话投机而身体前移。前席。

・積悪(せきあく)の家には必ず余殃(よおう)あり

積善之家，必有餘慶。積悪之家，必有餘殃。

說苑・說叢

中：积恶之家，必有余殃。

- 赤心(せきしん)を推して人の腹中に置く
籛王推赤心置人腹中，安得不投死乎。
後漢書・光武帝紀上

中：推心置腹。

- 赤貧(せきひん)洗うが如し
初卜居於芝街時赤貧如洗，舌耕殆不給衣食。
先哲叢談・物茂脚

中：赤貧如洗。

- 節を折る
王若欲報齊乎，則不如因變服折節而朝齊，楚王必怒矣。
戰國策・魏策・惠王

中：強自克制，改变平素志行。

- 節を全(まっと)うする
前使匈奴，留單於庭十九歲迺還，奉使全節，以武爲典屬國。
漢書・昭帝紀

中：保全節操。

- 積毀(せつき)骨を銷(しょう)す
臣聞之，積羽沈舟，羣輕折軸，衆口鑠金，積毀銷骨。
史記・張儀列傳

中：積毀銷骨。衆口铄金。曾參殺人。

- 雪上(せつじょう)霜を加う
師云，汝只解瞻前，不解顧後。伊云，雪上更加霜。
宋・釋道原〈景德傳燈錄・大陽和尚〉

中：(物の多くある上にさらに似た物を加えるという意味から)表示在众多的物体上添加同类的东西。

注：中国語の“雪上加霜”は泣き面に蜂の意味です。

- 雪中の筍(たけのこ)
宗母嗜筍，冬節將至，時筍尙未生。宗入竹林哀歎，而筍爲之出。得以供

母，皆以爲至孝之所致感。

吳志・孫皓傳注

中：1.(ありえないことが起こるとえという意味から)喻发生了不可能发生的事。

2.(孝心の深いたとえという意味から)孟林笋。

・雪泥(せつでい)の鴻爪(こうそう)

人生到處知何似，應似飛鴻踏雪泥。

泥上偶然留指爪，鴻飛那復計東西。

蘇軾・和子由澗池懷舊

中：(人の事跡などの痕跡の残らないことという意味から)杳如黃鶴。

注：中国語の“雪泥鴻爪”は昔の出来事の痕跡という意味です。

・善(ぜん)に従うこと流るるがごとし

従善如流，宜哉。

左傳・成公八年

中：从善如流。

・善(ぜん)を責むるは朋友(ほうゆう)の道なり

夫章子，子父責善而不相遇也。責善，朋友之道也。父子責善，賊恩之大者。

孟子・離婁章句下

中：責善，朋友之道也。

・善悪(ぜんあく)の報(むく)いは影の形に隨(したが)うが如し

太上曰，禍福無門，惟人自召。善惡之報，如影隨形。

太上感應篇・上

中：善惡之報，如影隨形。

・千金の裘(きゅう)は一狐(いつこ)の腋(えき)に非(あ)らず

太史公曰，語曰，千金之裘，非一狐之腋也。臺榭之榱，非一木之枝也。

史記・劉敬叔孫通列傳贊

中：千金之裘，非一狐之腋。

- 千金の子は市(いち)に死せず

諺曰、千金之子、不死於市。此非空言也。

史記・貨殖列傳

中：千金之子、不死于市。

- 千鈞(せんきん)も船を得(う)れば則ち浮かぶ

夫雖有材而無勢、雖賢不能制不肖、故立尺材於高山之上、則臨千仞之谿、材非長也、位高也。桀爲天子、能制天下、非賢也、勢重也。堯爲匹夫、不能正三家、非不肖也、位卑也。千鈞得船則浮、錙銖失船則沈、非千鈞輕、錙銖重也。有勢與無勢也、故短之臨高也、以位。不肖之制賢也、以勢。

韓非子・功名

中：千鈞得船則浮、錙銖失船則沈。

- 前事(ぜんじ)を忘れざるは後事(こうじ)の師なり

前事之不忘、後事之師。

戰國策・趙策一

中：前事不忘、后事之師。

- 前車(ぜんしゃ)の覆(くつがえ)るは後車(こうしゃ)の戒(いましめ)

鄙諺曰、前車覆後車戒、秦氏所以亟絶者、其轍迹可見、然而不避、是後車又將覆也。

漢書・賈誼傳

中：前車之鑒。前车可鑒。

- 千丈(せんじょう)の堤(つつみ)も蟻(あり)の穴(あな)より崩(くず)れる

→「蟻(あり)の穴(あな)から堤(つつみ)も崩(くず)れる」に同じ。

- 千万人(せんまんにん)といえども吾(われ)往(ゆ)かん

自反而不縮、雖褐寬博、吾不慄焉。自反而縮、雖千萬人、吾往矣。

孟子・公孫丑上

中：虽千万人、吾往矣。

- 前門(ぜんもん)の虎(こ)を拒(ふ)せぎ、後門(こうもん)に狼(おおかみ)を進

む

諺曰，前門拒虎，後門進狼，此之謂歟。

趙弼・評史

中：前門拒虎，後門進狼。

。千里(せんり)の行(こう)も足下(そっか)に始まる

合抱之木，生於毫末。九層之台，起於累土。千里之行，始於足下。

老子・第六十四章

中：千里之行，始於足下。

。千慮(せんりょ)の一失(いっしつ)

臣聞智者千慮，必有一失。

史記・淮陰侯列傳

中：智者千慮，必有一失。

。千慮(せんりょ)の一得

臣聞智者千慮，必有一失。愚者千慮，必有一得。

史記・淮陰侯列傳

中：愚者千慮，必有一得。

。滄海(そうかい)変(へん)じて桑田(そうでん)となる

麻姑自説云，接待以來，已見東海三爲桑田。

晉・葛洪・“神仙傳・王遠”

獨往不可羣，滄海成桑田。

唐・儲光羲“獻八舅東歸”

中：滄海桑田。

。創業(そうぎょう)は易(かす)く守成(しゅせい)は難(かた)し

上嘗問侍臣，創業守成孰難。房玄齡曰，草昧之初，群雄並起，角力而後臣之，創業難矣。魏徵曰，自古帝王莫不得之於艱難，失之於安逸，守成難矣。上曰，玄齡與吾共取天下，出百死得一生，故知創業之難，徵與吾共安天下，常恐驕奢生於富貴，禍亂生於所忽，故知守成之難。

十八史略唐

中：創業易，守成難。

- ・糟糠(そうこう)の妻は堂より下さず
貧賤之知不可忘，糟糠之妻不下堂。
後漢書・宋弘傳

中：糟糠之妻不下堂。

- ・桑田(そうでん)変じて滄海(そうかい)となる
已見松柏摧爲薪，更聞桑田變成海。
劉希夷・代悲白頭翁詩

中：滄海桑田

- ・蒼蠅(そうよう)驥尾(きび)に付(ふ)して千里を致す
蒼蠅附驥尾而致千里，以喻顏回因孔子而名彰。
史記・索隱

中：蒼蠅附驥尾而致千里。

- ・叢蘭(そうらん)茂(しげ)らんと欲し秋風(しゅうふう)之(これ)に敗(やぶ)る
故叢蘭欲茂，秋風敗之。王者欲明，讒人蔽之。
帝範・去讒

中：丛兰欲茂，秋风败之。

- ・倉廩(そうりん)実(み)ちて礼節を知る
倉廩實，則知禮節。衣食足，則知榮辱。
管子・牧民

中：衣食足，則知榮辱。

- ・滄浪(そうろう)の水清(す)まば以(もつ)て我が纓(えい)を濯(あら)うべし
有孺子歌曰，滄浪之水清兮，可以濯我纓。滄浪之水濁兮，可以濯我足。
孟子・離婁章句上

中：滄浪之水清兮，可以濯我纓。

- ・狙公(そこう)椽(とち)を賦(くば)る
狙公賦芋曰，朝三而暮四。

莊子・齊物論

中：朝三暮四。

- 備(そな)えあれば患(うれい)なし
惟事事有備，有備無患。

書經・說命中

中：有备无患。

- 大隱(たいいん)市(いち)に隠る
小隱隱陵藪，大隱隱朝市。

王康琚・反招隱詩

中：大隱隱朝市。

- 大厦(たいか)の村は一丘(いっきゅう)の木にあらず
故千金之裘，非一狐之腋。大厦之材，非一丘之木。太平之功，非一人之略也。

王褒・四子講德論

中：大厦之材，非一丘之木。

- 大厦(たいか)の顛(たお)れんとするは一木の支うる所にあらず
〔文中子〕退而謂董常曰，大厦將顛，非一木所支也。

王通・中說・事君

中：大厦將顛，非一木所支也。

- 大海(たいかい)の一粟(いちぞく)
寄蜉蝣於天地，渺滄海之一粟。

蘇軾・前赤壁賦

中：滄海一粟。

- 大旱(たいかん)の雲霓(うんげい)を望む
民望之，若大旱之望雲霓也。

孟子・梁惠王下

中：大旱望云霓。